

2024（令和6）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1472800349	事業の開始年月日	平成12年10月19日
		指定年月日	平成13年1月1日
法人名	有限会社あかつき		
事業所名	グループホームあかつき		
所在地	(257-0031) 神奈川県秦野市曾屋555-1		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員 計 9 名 ユニット数 1 ユニット	
自己評価作成日	令和6年9月24日	評価結果 市町村受理日	令和7年3月3日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ひとつ屋根の下、利用者と職員が大家族のような関係を築き、毎日ゆとりある時間の中で協力しながら生活しています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橘1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和7年11月25日	評価機関 評価決定日	令和7年2月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、小田急線「秦野」駅から神奈中バスで7分「榎木堂」下車、徒歩5分ほどです。平屋建て、1ユニット9人のグループホームです。玄関から神奈川県の名峰「大山」が正面に見え、付近はマンションや敷地の広い工場が立地している環境です。

＜優れている点＞

事業所理念の「昔懐かしい『大家族』」を職員は日々実践し、利用者一人ひとりに合った声かけをして一緒に笑えるような支援をしています。介護福祉士の資格を持ち長く勤務している職員が多く、介護の専門家として利用者と和気あいあいと接しています。食事のメニューは利用者と相談しながら、専任職員が調理しています。対面キッチンの為、煮物などの匂いがリビングに広がり、家庭の味を楽しめています。介護計画はモニタリング担当者を決め、利用者の気になる課題を記録したうえで検討し、その後、家族や本人の意向を確認して利用者視点の介護計画を作成しています。働きやすい職場環境づくりに取り組み、多様な勤務形態を採用しています。介護福祉士資格取得に向け、県立公共職業訓練施設「かなテクカレッジ西部」の研修受講を支援し、非常勤職員も多数が資格取得しています。

＜工夫点＞

「あかつき便り」は隔月、家族に郵送やLINEで発信しています。利用者の巻き爪や肥厚爪などの足爪のトラブル解消のため、希望者には足爪フットケア専門店を利用して、健康な足の生活を支援しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	12 ～ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	17 ～ 23
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホームあかつき
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	令和2年に理念を新たに設定しました。職員の目につきやすい場所に掲示し共有しており、実践するよう努めています。	「昔懐かしい『大家族』」を事業所の理念としています。管理者は「利用者と家族のように生活する場づくり」に努めています。声かけして一緒に笑い、一人に声かけしたら全員にその人に合った声かけをするなど、職員は利用者への声かけを大切にして支援に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入しており、今年は夏の子供神輿の休憩所として参加しております。	まだ新型コロナの流行が続いているため、地域との交流は感染に配慮し慎重に進めています。自治会の子ども神輿の休憩所として行事に参加しています。散歩は富士山が良く見える近隣の場所や野菜畑などに行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議の際などに、介護などの関するご相談があった場合は相談に乗らせていただいています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1度定期的に報告を行い、意見要望を取り入れるようにしています。ご家族、自治会長、民生委員、地域高齢者支援センター、市役所職員の方に集まっております。	隔月に対面での会議を実施しています。秦野市役所高齢介護課職員や本町地域高齢者支援センター職員、自治会々長、民生委員、利用者家族が参加し、活動報告や地域の行事連絡などの情報・意見交換しています。会議では利用者の日頃の様子の写真アルバムを作成し映して好評です。	利用者家族の参加がない状況です。年に1、2回でも家族の参加を配慮した日程を設定し、家族誰でもが参加できることが期待されます。議事録では出席者名や発言内容の記録が期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	月1回の市への介護保険の更新時期の入居者の報告を行うほか、市役所の担当者の運営推進会議の参加や、その他報告や相談をしています	コロナ禍中に秦野市高齢介護課から、ガウン、マスク、ゴーグル、フェイスシールドなど個人用防護具の支給を受けています。市の担当者が運営推進会議に毎回参加しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	年2回社内勉強会を行い、身体拘束防止などにかかわる正しい知識を身につけ、身体拘束のないケアを行うよう努めています。また、年4回身体拘束適正化検討委員会を行っています。	身体拘束のない介護に取り組んでいます。身体拘束適正化委員会は3ヶ月ごとに実施し、委員は管理者、ケアマネジャー、常勤職員2名で構成され、マニュアルの見直しなどを実施しています。職員はe-ラーニング研修を年2回受講し確認テストを受けて理解を深め、身体拘束のない支援に努めています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	年2回社内勉強会を行い、虐待防止などにかかわる正しい知識を身につけ、虐待が行われることのないケアを行うよう努めています。	虐待防止に向け、e-ラーニング研修を全員が受講して研鑽を積み支援に活かしています。毎年神奈川県養介護施設従事者などによる高齢者虐待防止に係る一斉点検があり、日頃の利用者支援の振り返りを実施しています。虐待防止委員会では知識不足がないように取り組んでいます。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	ケアマネジャーが市内の介護支援専門員協会に所属し研修を受けており、社内勉強会で他職員と共有するようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時また改定などの際は、不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い納得してもらうようにしています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族に近状報告を行う際やケアプラン作成時などに、意見要望を伺い、ケア会議で話し合っって対応をしています。	利用者の意見は日々のケアの中で、家族からの意見は面会時や電話で聞いています。基本的に安全面に問題がなければ要望に応じています。現在面会は玄関で30分としています。面会時にノンアルコール飲料を家族から受け取り、飲んでいる利用者もいます。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	代表者は管理者を兼ねており、日常的に職員の意見や提案を聞いており、随時職員と話し合い運営に反映するよう努めています。	職員の要望は否定せず基本的に聞き入れています。職員から要望のあった『e-ランニング研修』受講は法人で契約し、全職員が受講できる体制となっています。スマートフォンで研修受講が出来、修了した職員には研修手当を支給するなど支援しています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員それぞれの事情を把握し、できるかぎり対応するよう努めています。また、キャリアパスを策定し、年1回の昇給制度を整備しました。	働きやすい職場環境づくりに取り組み、多様な働き方に対応しています。常勤者は日中8時間勤務の形態、9時から13時半迄や13時半から18時まで、また昼食や夕食づくりの勤務など、働き方に工夫をした勤務体系を取っています。年収を上げるため夜勤勤務を希望する職員もいます。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	ケアマネジャーは市内の介護支援専門員協会に所属し研修を受けています。介護職員は外部の研修を受ける機会を設けています。	年間研修計画を策定し予定通りに推進しています。研修は外部の『e-ラーニング研修』で「虐待防止や認知症者とのコミュニケーション法」など多岐にわたっています。また法人では介護福祉士資格取得に向け、県立公共職業訓練施設「かなテクカレッジ西部」の研修費用を助成しており、資格取得者が多数います。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしています。	介護支援専門員協会や介護保険事業者連絡協議会などに所属し、研修などへの参加をしています。また、市内グループホームと共同でイベントに参加し、職員が同業者と交流することでサービスの質の向上を図っています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居初期はなるべく一緒にいる時間をとり、本人の不安などに寄り添い、信頼を得ることができるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族の要望や不安を傾聴し、信頼関係を築くよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前には、必ずケアマネジャーと介護職員で本人や家族と面談し、アセスメントを行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	掃除・食器洗い・洗濯物たたみなど、出来ることは共に行い、共に過ごすよう努めています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族と連絡を取り合い、情報を共有し、共に支えていくよう努めています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族等との面会や、外出、電話等をする事で、関係が途切れないよう支援しています。	コロナ禍が長引き面談や外出の機会が減っています。家族に車いすでの道路の歩き方を教えるなどの支援をしています。スマートフォンでのサポートなど、関係が途切れないよう支援しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者一人ひとりの性格や、利用者同士の関係を把握し常に気を配り支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所した後も、その後の様子などを相手方の負担にならない程度に伺い、必要があれば支援するよう努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話の中で、本人の思いや意向を把握するよう努めています。	日々の会話において、職員は利用者が話し始めるのを待つようにしています。本人から出た言葉を大切に、一人ひとりの思いや希望を受け止めています。記憶が残りにくい利用者には、一問一答で、一つずつゆっくり聞いて、希望を聞くよう努め、内容を記録し共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前のアセスメント時に本人や家族、ケアマネから、出来るだけ情報をいただくようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個人のケア記録を記入し、職員で共有するよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアマネジャーがアセスメントを行い、本人・家族・職員・医師等と話し合い、ケアプランを作成しています。月1回モニタリングを行い、半年に1回または状況の変化に応じて、ケアプランの変更を行っています。	申し送り時に生活の様子や気づきを話し合っています。排泄や食事など日常生活の様子も報告しています。担当者を決めて、利用者の一番気になる所など、ケアの課題を具体的に記録し検討しています。毎月モニタリングを行い、家族や本人の意向を確認し、利用者の視点に立ったプランを作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子を個人ケア記録に記入して職員間で共有し、ケアの実践に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	月1回の書面でのケア会議や、日々の申し送りの中で職員間の情報共有・意見交換を行い、柔軟な支援を行うよう努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	主治医の往診や訪問薬局・訪問歯科・訪問看護・栄養士の訪問などの医療関連の地域資源を積極的に取り入れ、安心して暮らせるよう支援しています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人や家族が希望すれば、事業所の連携する病院を紹介し、適切な医療を受けられるよう支援しています。	主治医に利用者の体調を事前に伝え、迅速な診察に繋がっています。訪問診療に薬剤師が同行し、薬の飲み合わせなどを医師と相談しています。また市内の病院の管理栄養士が月一回来所し、食事の様子を観察し、上手く飲み込めない人や退院後の食事形態など、個別に相談し健康な暮らしを支援しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	提携している病院が24時間体制で相談・対応をしており、常に連携を図っています。 また、訪問看護ステーションとの医療連携を取り、より適切な医療が受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に情報提供書を病院に渡し、情報交換に努めています。 また退院時は、退院前にモニタリングに伺い、病院関係者からの情報提供をいただけるようにしております。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に「重度化した場合における対応および看取りに関する指針」を元に説明し、入居後状態の悪化などがみられた場合は、必要に応じ本人・家族・主治医・職員で会議を行い、対応しています。	看取りの状態になると、人の気配がしたり皆の声がよく聞こえるリビングに近い部屋に移動します。出来るだけ食事は、皆と一緒に摂っています。家族と過ごす時間を大切にしながら、安心して最期まで暮らせるよう支援しています。家族の希望により看護師と共にエンゼルケア（逝去時ケア）をすることもあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故発生時のマニュアルがあり、対応するようになっています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の避難訓練を行っております。 また、自治会の方に運営推進会議に参加してもらい、地域の災害時の情報などを確認させていただいています。	事業所は耐震建築の為、災害時には避難せず、留まる事としています。近くの取水地から水の供給許可を得ています。地震を想定し、物が落ちてこない廊下の安全な場所に避難する訓練をしています。災害に備え、7日分の備蓄品を備えています。	通常の訓練は玄関からの非難を実施していますが、非常口からの避難訓練も期待されます。また、地域住民と交流の機会を持ち、支援体制の構築も期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの性格などに応じ、言葉掛けや対応をするよう心掛けています。	職員は、利用者と過ごす時間が長く、馴染みの関係となっても、その人の表情や声のトーンから、一人で過ごしたい様子の時などは、利用者の尊厳を損なわないようにしています。風呂やトイレに誘導する際には、「～しませんか」など自己決定を促すような言葉かけを工夫しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の思いが表せるよう傾聴し、自己決定ができるように働きかけています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	1日のスケジュールはありますが、本人の希望があれば、生活リズムが狂わないことを念頭に柔軟に対応するよう努めています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	一人ひとりの衣服の選択や髪型の希望に対応するよう努めています。また、2か月に1回理容師が来所し、希望者のカットを行っています。			
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	一汁三菜を心掛け、好き嫌いや摂食状況を把握し、個々に対応できるよう努めています。現在、汁物については、減塩の為朝のみにしています。	食材は管理者が肉や魚などバランスを考えて購入しています。メニューは当日に利用者と相談しながら、調理担当職員が、主食とおかず3品を作っています。対面キッチンの為、煮物などの匂いがリビングに広がります。誕生会、敬老会には手作りの「祝い膳」で、家庭の味を楽しめるようにしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事・水分の摂取量の記録をつけて把握し注意しています。また、食事時以外にも午前午後の水分補給2回と別に一人ひとりの状況に応じた水分補給を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後に、一人ひとりの状況に応じた口腔ケアや声掛けを行っています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの状況に応じ、本人のトイレに行きたいとの希望を尊重して対応しています。	転倒防止の為、夜間のみポータブルトイレを使用したり、尿量に応じたパットを使用して漏れを防ぐなど、個別の支援をして安心して生活出来るよう支援しています。夜間1時間ごとにトイレに起きる人は、日中の眠気などの様子を見て、主治医に相談した結果、まとまった睡眠が取れるようになっていきます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄チェック表を記入し、主治医と相談しながら、水分補給・服薬変更等を行っています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	基本的には週2回の入浴を行っています。曜日と時間帯は決まっていますが、順番はその日の気分等に応じ柔軟に対応しています。また、体調がすぐれない時などは、別の日での入浴を行っています。	脱衣所に一人ひとりのカゴを置き、座面に敷くタオル、足ふきマットを準備し、水虫など衛生面に配慮しています。ヒートショック予防の為、脱衣所は暖房器具で暖めています。車いす利用者や、体が前かがみになる人には、安全に入浴できるよう2人介助で支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中は体調などに注意し、状況によっては休息できるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	訪問薬局と連携し、処方薬の管理を行ってもらっています。また、新しい薬が処方された時は、服薬方法や副作用などを指導してもらい、状態変化の確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	洗濯ものたたみや食器拭きなどの役割を行ってもらっているほか、掲示物の制作などを行っています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	屋外の歩行が可能であれば、体調等を配慮し散歩を行うほかに、天気によっては廊下を一緒に歩行するようにしています。また家族と旅行に出かけたり、一時帰宅することができるよう支援したりしています。	散歩は利用者のペースに合わせてゆっくり歩けるよう1対1で行い、遠くの山や畑など自然に触れながら会話を楽しめるよう努めています。家族の協力を得て、車で近くの公園に花を見に行ったりしています。外出することで情報量が増えて混乱する人もいるため、個々の利用者に合った支援をしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	過去に利用者の中で、お金に関してトラブルがあり、基本的にお金を所持している利用者はおらず、事業所が立替をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	一人ひとりに応じ、家族と相談しながら電話したりできるように支援しています。また、新型コロナウイルス流行後、ビデオ通話によるオンライン面会も取り入れております。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者が心地よく感じるような内装や明るさになっており、写真や作品を飾ることで季節感を取り入れるよう工夫をしています。	リビングでは皆が協力して作品を制作しています。紙をまっすぐ切る人、丸めて貼り付ける人など、自分の出来ることで参加し、作品を壁に飾って温かい空間をつくっています。レクリエーション担当の職員による歌、ゲーム、かるたなど一緒に歌ったり笑ったりして楽しめる場所になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	落ち着いて過ごせるよう、席などを配慮しています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家具は自宅で使用していたものをできるだけ持ってきてもらい、居心地良く過ごせるよう工夫しています。	居室の入口の上部が収納スペースになっており、室内にポータブルトイレや歩行器を置いても、十分な動線を確認できています。手先の器用な利用者は、本を見ながら布ぞうりやかごを編むなど、好きな事を続けながら自分らしく生活出来る部屋になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫しています。	トイレや浴室に表示を貼る、一人ひとりの部屋に表札をつけるなどしてわかりやすくし、出来るだけ自立した生活が送れるようにしています。		

2024年度

事業所名 グループホームあかつき
作成日： 2024年2月25日

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1		利用者家族の参加がない状況です。年に1、2回でも家族の参加を配慮した日程を設定し、家族誰でもが参加できることが期待されます。議事録では出席者名や発言内容の記録が期待されます。	仕事をされているご家族の都合を確認し、出来るだけ多くのご家族が参加できるようにします。	参加可能な日程をご家族に確認し、土日での開催を目指します。	6 ヶ月
2	16	通常の訓練は玄関からの避難を実施していますが、非常口からの避難訓練も期待されます。また、地域住民と交流の機会を持ち、支援体制の構築も期待されます。	非常口からは、車いすが出ることが出来ない為、車いすが出れるような台などを設置した上で、避難訓練を行います。	非常口の外側に台を設置することを検討します。 設置後、非常口を使用した避難訓練を行います。	1 2 ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月